

## 「シンガポール国立大学分析アジア哲学プログラム参加報告書」

京都大学文学研究科 修士1年 青木眞澄

ここでは、3月1日から13日にかけてシンガポール国立大学において開催された **Second Annual Triangular Graduate Conference on Asian Philosophy** 及び **Philosophy of Mind Seminar** への参加を主たる目的とした短期派遣プログラムについて、簡潔に報告する。

## ① 学習成果

まず、自分の研究テーマについて、英語でプレゼンテーションを行い、またその質疑応答によって、話す、書くという点で英語力が上達した。また、現地におけるレクチャーを受けるに際し、多くの英語文献をあらかじめ通読し、その上でレクチャーを受講し、その内容を理解し、質問を行うことによって、読む、聞く、話すという点で英語力が上達した。また、海外での最新の研究状況を把握することができた。日本語を母語とする我が国における哲学の研究スタイルは、英語圏における最新の研究状況を踏まえることがやや難しい、という難点を持つが、海外において第一線で活躍する研究者のレクチャーを受講することによって、こうした点を補強することができた。また、世界における我が国での研究状況の位置づけを認識することができた。

## ② 海外での経験

まず、言語の障壁を幾分か克服することができた。今回の留学が海外での初めての経験であったため、派遣前には、同様に海外から派遣されてきた学生との日本での交流において、コミュニケーションが円滑に進まないことが多々あったが、現地で英語を使わねばならない状況に置かれ、初めはジェスチャーを交えながらも、少しずつ意思の疎通が可能になっていった。また、異文化を理解することができた。今回初めて東南アジア地域に訪れたため、人々の食事、生活といった文化、日常的なものの考え方といった点で、我々とは全く異なる世界を経験し、理解した。

## ③ プログラム内容

まず、**Second Annual Triangular Graduate Conference on Asian Philosophy** について。ここでは、シンガポール、台湾、日本それぞれの大学院生がアジアの哲学に関するプレゼンテーションを行った。私は、明治日本の仏教哲学者を取り上げ、その西洋哲学からの影響について発表した。これまで馴染みのなかった思想が多く紹介され、それぞれが興味深い、という感想を持つ人が、私自身を含め、多かったことが印象的であった。次に、**Philosophy of Mind Seminar** について。上述の三日間のカンファレンスを挟む形で、シンガポール国立大学のスタッフによる「心の哲学」に関するレクチャーが各日行われた。ここでは、現代哲学の一分野として最近よく取り上げられる「心の哲学」に関する、第一線の研究が紹介された。自分はこれまで主に古典的な文献を研究してきたため、一連のレクチャーは自分にとって非常に新鮮な経験となった。なお、派遣メンバーは、派遣約一カ月前より、各レクチャーで扱われる論文についての準備勉強会を行った。

## ④ 進路への影響

これまで海外に留学したことがなかったため、今回の派遣を通して、より長期の留学へのイメージが具体的に変わった。自分の研究分野は西洋哲学であるため、日本における研究に留まらずに、常に海外の研究の最新の動向に目を向ける必要があることを、改めて認識した。また、より具体的な観点では、今回の派遣によって、シンガポールや台湾の先生方と知り合うことができたため、今後の研究において、様々な局面でこうした先生方からアドバイスをいただくことができる、という利点を得た。また、研究面では、今回はプレゼンテーションで日本の仏教哲学者を海外に向けて紹介したが、このように、西洋の哲学思想を一方向的に学ぶだけでなく、我が国の思想を海外に向けて発信する、という研究の方針を、今回の派遣を通して新たに付け加えることができた点が、大きな収穫である。

## ⑤ その他

また、シンガポール、台湾、その他の国で哲学を研究する大学院生たちと交流できたことが、大きな収穫であった。海外の大学院生たちと意見交換することによって、言語の壁を越えて共有しうる問題意識が存在することを認識した。また逆に、交流を通じて、これまで見過ごしてきたような新たな視点が存在することを発見することもできた。今後も、こうした国際交流プログラムに積極的に参加し、研究に対しより多面的なアプローチを可能とできるようにしてゆきたい。